

日本史

1

解答

問1. ウ 問2. イ 問3. ア 問4. エ 問5. エ
問6. ア 問7. ウ 問8. エ 問9. オ 問10. ア

解説

《律令体制と土地政策の転換》

問2. ア. 誤文。口分田は6歳以上になると男には2段(720歩)、女にはその2/3(1段120歩)があたえられた。

ウ. 誤文。運脚によって都に運ばれたのは調・庸である。租は、田1段につき稲2束2把(収穫の約3%)を納める土地税で、主に地方の財源として用いられた。

エ. 誤文。輸租田には口分田をはじめ、位田・墾田などがあった。これに対し、租が免除される田を不輸租田といい、神田・寺田などがあった。

問3. イ～エ. 誤文。イは雑徭、ウは資人、エは仕丁に関する説明である。

問5. ア・イ. 誤文。戸籍に登録された地を離れ、他所で調・庸を負担することを浮浪、所在が不明となることを逃亡といった。

ウ. 誤文。「東大寺」が誤り。律令制下において、僧侶は僧尼令の規制を受ける国家公認の官僧のみが認められていた。しかし、僧侶は課役が免除されていたため、国家の許可なく勝手に僧侶になる者(私度僧)が続出した。

問6. イ・ウ. 誤文。政権首班の長屋王のもとで、722年に百万町歩開墾計画が立てられ、翌年に三世一身法が出された。

エ. 誤文。三世一身法では、定められた私有の期限がくると墾田は収公されたため、農夫らは開墾地を維持する意欲を失っていた。そのため、政府は743年に墾田永年私財法を制定し、一定の限度内で開墾した土地を永年にわたって私有することを許した。これにより、中央貴族や東大寺などの大寺院、地方豪族などによる開墾が盛行した。

問7. ウ. 誤文。「畿内」が誤り。嵯峨天皇の時代の823年、大宰府に公営田が設置された。財政難が深刻化するなかで、政府は大宰府に公営田(823年)を、畿内に官田(879年)を設けて、有力農民を利用した直営方式を採用して収入をはかるなど、財源確保に努めた。

問10. イ. 誤文。「大蔵省」が誤り。官省符荘は、太政官や民部省によって不輸が認められた荘園。

ウ. 誤文。「勘解由使」が誤り。不入の権は、国衙からの検田使や収納使などの立ち入りを拒否する権利。勘解由使は、国司交替の事務引き継ぎを監督するために設置された令外官。

エ. 誤文。「大覚寺統」が誤り。後白河上皇が持仏堂に寄進した長講堂領は、のちに持明院統の経済基盤となった。大覚寺統の経済基盤となったのは、鳥羽上皇が皇女八条院に伝えた八条院領である。

2 **解答** **問1.** ウ **問2.** エ **問3.** イ **問4.** イ **問5.** ア
問6. イ **問7.** イ **問8.** ウ **問9.** エ **問10.** ア

解説

《中世の絵画と歌集》

問1. 絵画資料①は院政期の文化の絵巻物である『信貴山縁起絵巻』の「山崎長者の巻(飛倉の巻)」。命蓮が飛ばした鉢が山崎長者の米倉を信貴山上に運ぶ様子が描かれている。なお、エの応天門の変を題材とした絵巻物は『伴大納言絵巻』である。

問2. 絵画資料②は『天橋立図』。東山文化の雪舟晩年の水墨画で、日本三景の一つである丹後国(現京都府)の天橋立が描かれている。

問3. 絵画資料③は『一遍上人絵伝』。鎌倉文化の絵巻物で、京都に入った一遍が弟子とともに踊念仏を興行している姿が描かれている。

問4. 絵画資料④は『洛中洛外図屏風』。戦国時代から江戸時代の屏風画で、京都市中・郊外の名所や風流踊りなどが描かれている。

問6. 史料の「定家」「家隆」から、『新古今和歌集』と判断したい。『新古今和歌集』は、後鳥羽上皇の命で、藤原定家・家隆らが編者となって編纂された。

問7. 難問。藤原定家は歌集の『拾遺愚草』、日記『明月記』を著した。アの『山家集』は西行、オの『金槐和歌集』は源実朝の歌集。ウの『花鳥

余情』は一条兼良が著した『源氏物語』の注釈書。

問8. 『新古今和歌集』の成立が鎌倉時代初期（1205年）であることから、鎌倉時代末期（1331年頃）に成立した『徒然草』の著者である兼好法師は『新古今和歌集』の作者にあてはまらないと判断したい。

問9. 空欄にあてはまる歴史書は『吾妻鏡』で、史料の「故右大將軍」に着目しよう。「故右大將軍」は源頼朝を指し、『吾妻鏡』を出典とする頻出史料の「尼將軍北条政子の演説」にも「故右大將軍」が掲載されているため、その知識を援用して正答を導きたい。アは北畠親房の『神皇正統記』、イは『増鏡』、ウは慈円の『愚管抄』に関する説明である。

問10. ア. 正文。

イ. 誤文。史料の「朝親たまたま定家朝臣に属し」から、藤原定家の弟子となったのは内藤朝親である。

ウ. 誤文。「幕府と朝廷との争いがおさまって」が誤り。史料の最後から將軍源実朝は勅撰集を手に入れていることがわかる。実朝の暗殺後に幕府と朝廷との争いである承久の乱が起きた。

エ. 誤文。史料の「將軍家（3代將軍源実朝のこと）和語を好ましめ給ふの上、故右大將軍（実朝の父である源頼朝のこと）の御詠撰入せらるるの由聞こしめすにつき、しきりに御覧の志有り……朝雅・重忠等の事により、都鄙静かならざるの故、今に遅引す」から、実朝は父源頼朝の和歌が勅撰集に入集したと聞いて歌集を取り寄せたいと考えたが、なかなか実現しなかったことがわかる。

3 **解答** **問1.** エ **問2.** イ **問3.** イ **問4.** ウ **問5.** ウ
問6. ア **問7.** ウ **問8.** イ **問9.** ア **問10.** エ

解説

《正徳の治と三大改革》

問2. 5代將軍徳川綱吉の側用人柳沢吉保が作庭した六義園は、起伏のある回遊式築山泉水庭園で東京都に現存している。アは4代將軍徳川家綱、ウは大岡忠相、エは吉良義央に関する説明であるため、消去法を利用して正答を導きたい。

問3. ア. 誤文。「有栖川宮家」が誤り。新井白石は、閑院宮家を創設して朝廷との関係の融和を進めた。

ウ. 誤文。「下げて」が誤り。白石は、元禄小判の金の含有率を上げて、慶長小判と同率の正徳小判を鑄造させた。

エ. 誤文。長崎貿易における金銀流出を防ぐため、白石は海舶互市新例を出して貿易額を制限した。

問5. ア. 誤文。田沼意次を老中に登用したのは10代将軍徳川家治である。

イ. 誤文。8代将軍徳川吉宗の諮問に答えて『政談』を著したのは荻生徂徠である。

エ. 誤文。吉宗は、山田奉行の大岡忠相を江戸町奉行に抜擢した。勘定奉行に抜擢されたのは神尾春央である。

問6. イ. 誤文。吉宗は、幕府の定火消を中心としてきた消火制度を強化するため、町方独自の町火消を組織させた。

ウ. 誤文。吉宗は相対済し令を出し、激増した金公事（金銭貸借による争い）を幕府に訴えさせず、当事者間での解決を命じた。

エ. 誤文。「江戸川」が誤り。吉宗は、目安箱の投書を受け、貧民を対象とする医療施設として小石川に養生所を作った。

問8. やや難。

ア. 誤文。「嫡子」が誤り。松平定信は8代将軍吉宗の孫であり、田安宗武の7男である。

ウ. 誤文。定信の自叙伝『宇下人言』は、自身の誕生から老中辞職直前までが記されている。

エ. 誤文。尊号一件などをめぐって11代将軍徳川家斉と対立した定信は、老中在職6年余りで退陣し、隠居して白河楽翁と号した。

問9. イ. 誤文。「古学」が誤り。定信は、寛政異学の禁を出して古学などの諸学を異学とし、朱子学の官学化と教学統制を図った。

ウ. 誤文。「石川島の人足寄場」が誤り。七分積金の管理運営は、江戸町会所が中心となって行った。人足寄場は無宿人らが収容された施設で、職業訓練が施された。

エ. 誤文。定信は旧里帰農令を出して江戸に流入した農民に帰郷を奨励し、農業人口の回復につとめた。

解説

《条約改正と協調外交の挫折》

問1. ア. 誤文。1863年の八月十八日の政変で長州に逃れたのは三条実美らである。

ウ・エ. 誤文。公家出身の岩倉具視は、明治政府で右大臣となり、遣外使節の大使として欧米を視察した。帰国後は大久保利通らとともに征韓論に反対した。

問2. イ. 誤文。関税自主権の全面的回復は小村寿太郎の改正交渉に関する説明である。

ウ. 誤文。ノルマントン号事件は不平等条約に対する世論の反感を強め、井上馨は交渉を中止して外相を辞任した。

エ. 誤文。「一人」が誤り。井上は、外国人を被告とする裁判には過半数の外国人判事を採用することを認めていた。

問3. ア・イ. 誤文。佐賀（肥前）出身の大隈重信は、イギリス流の議院内閣制の早期導入、国会の即時開設を主張し、漸進主義をとる伊藤博文と対立した。

ウ. 誤文。「新島襄」が誤り。大隈は1882年に東京専門学校を設立し、小野梓らと教育にあたった。新島襄は同志社英学校を設立し、キリスト教精神による教育を行った。

問4. ウ. 誤文。天津事件は、1891年、訪日中のロシア皇太子が滋賀県大津で警備の巡查津田三蔵に切りつけられ負傷した事件。政府はロシアとの関係悪化を恐れて津田の死刑を要求したが、大審院長児島惟謙は法律の規定通りに無期徒刑に処させ、司法権の独立を守った。

問6. ア. 誤文。「西園寺公望」が誤り。ワシントン会議には、加藤友三郎海相、幣原喜重郎駐米大使らが全権として参加した。西園寺公望が全権として参加したのは1919年のパリ講和会議である。

イ. 誤文。四カ国条約の締結によって日英同盟協約、九カ国条約の締結によって石井・ランシング協定が廃棄された。

エ. 誤文。ワシントン海軍軍縮条約では、主力艦の保有比率と今後10年間の主力艦の建造禁止が定められた。

問7. ア. 誤文。普通選挙法の制定後、護憲三派は提携する目的を失って崩壊し、立憲政友会総裁の田中義一が内閣を組織すると、野党となった憲政会は政友本党と合同して立憲民政党を結成した。

イ. 誤文。「警視庁」が誤り。思想犯・政治犯の取り締まりにあたる特別高等課（特高）が警視庁に設置されたのは大逆事件の翌年の1911年。田中義一内閣は治安維持法を改正して最高刑に死刑を導入させ、特高を全国に設置した。

エ. 誤文。「上海事変」が誤り。第二次山東出兵の際、日本軍は済南で北伐を進める国民革命軍と軍事衝突した（済南事件）。上海事変は、満州事変と日中戦争の際に起こった日中間の武力衝突。

問8. ア. 誤文。「孫文」が誤り。北伐に乗り出したのは孫文の後継者である蒋介石。

イ. 誤文。1927年、蒋介石が反共クーデタを起こして南京に国民政府を樹立したため、第一次国共合作は崩壊した。

エ. 誤文。国民党は、孫文が結成した中国同盟会がもとになって辛亥革命後の1912年に結成された。

問10. 下線部の「後継者」は張学良を指す。

ア・イ. 誤文。張作霖の後継者である張学良は、1928年、勢力下にあった満州を国民政府支配下の土地と認めた。抗日運動につとめ、1936年の西安事件では蒋介石を監禁し、内戦停止と抗日を要求した。

ウ. 誤文。冀東防共自治政府は、華北分離工作を推進する関東軍が殷汝耕^{いんじょこう}に働きかけてつくらせた日本の傀儡政権である。